

今月の重点活動

■だいこん **ぎふ清流GAP**

5月24日、岐阜県福祉・農業会館において、ぎふ清流GAP農場評価証書交付式が開催され、古田知事からJAぎふだいこん部会に評価証書が交付された。

だいこん部会は令和2年度より県GAP確認制度を受けていたが、制度終了により、ぎふ清流GAP評価制度への申請を行い、評価を受けた。今回は42名中2名の農場評価を受けたが、今後は部会内での評価件数を増やしていく計画である。

農業普及課では、これからもGAPの取り組み推進を支援していく。



【評書を受け取る部会長】

(園芸産地支援第一係・横田 京子)

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー **岐阜ブロック活動始動**

5月14日、いきいきネットワークGLAMA第1回事業推進検討会が開催され、岐阜ブロックアドバイザー会長がOKBふれあい会館においてリモート会議に出席した。本年度の研修会をリモートで開催する計画や各ブロック活動の報告が行われた。

5月17日、岐阜ブロック役員会が開催され、新型コロナウイルス感染対策を踏まえながら、「やれることをやっぺいこう」と今後の活動計画について検討した。主な活動として年2回の広報発行、寄せ植え研修会などを行うこととした。

農業普及課では、これからも自主的なアドバイザーの活動を支援していく。



【リモート会議の様子】

(園芸産地支援第一係・横田 京子)

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稻 **根尾米の生育調査を始める**

本巣市の根尾米研究会では、34名の会員が特別栽培コシヒカリを15haで栽培しており、「安全・安心・美味しいお米」としてブランド化を進めている。

5月11日と27日、生育経過を把握するため、作付水田5ヶ所で生育調査を行った。普及課職員とJA担当者がほ場を巡回し、草丈や茎数、葉色を計測した。植付時期の4月末～5月上旬に周期的な降雨が見られたが、生育は順調で水田雑草も少ない状況である。

今後、農業普及課では生育調査を継続するとともに栽培研修会において施肥技術や水管理などを指導し、根尾米の安定生産を図っていく。



【生育調査の様子】

(地域支援第三係・松本 政行)

■大豆 栽培こよみ検討会を開催

岐阜農林事務所管内では、農業法人などが麦刈後の水田を活用して大豆を作付けしている。品種は「フクユタカ」で約120haの播種が計画されている。

5月13日、栽培こよみ検討会を開催し、今年度の大豆栽培体系を協議した。農業普及課やJAぎふ、全農岐阜の職員12名が出席し、施肥技術や病虫害防除を中心に検討した。特に、昨年度は局地的であるがハスモンヨトウが多発し、大豆や周辺作物への被害が発生したことから、栽培こよみへの新規薬剤の掲載についても協議した。

今後、農業普及課では、大豆の排水対策や適期播種などについて指導し、単収向上を進めていく。



【検討会の様子】

(地域支援第三係・松本 政行)

■えだまめ 岐女短学生にえだまめの講義を実施

5月11日、岐阜女子短期大学において、JAぎふおよび農業普及課担当者から、JAぎふえだまめ部会の概要やGAP制度の取り組みなどについて講義を行った。今年はウェブ会議システムを導入し、会場に4名、オンラインで3名の学生が参加した。

この取り組みは、えだまめの農業体験を通じて、ものづくりの大変さや重要性、食の意味などを考えてもらうことを目的とし、岐阜県生協連や大学などのサポートで岐女短生協の学生委員会「ピーチクラブ」の活動として平成24年から実施されている。昨年は、新型コロナウイルスの影響で中止となったため、今年は2年ぶりの再開となった。

今後、農業普及課では、えだまめの収穫体験などを通じて、食農教育支援を行っていく。

(園芸産地支援第一係・岡田 隆史)



【講義の様子】

■春ブロッコリー 目揃え会を開催

5月9日、JAぎふ黒野流通センターにおいて、JAぎふ春ブロッコリー部会の目揃え会が開催された。

市場関係者から今年も昨年と同様に高品質出荷をお願いしたいと説明があった後、農業普及課から現在の試験ほ場や生産者の生育状況の報告、今後の気象予報による注意すべき管理ポイントの説明を行った。

農業普及課では、これからもブロッコリーの安定生産に向け、栽培管理の指導や情報提供を行っていく。



【目揃えの様子】

(園芸産地支援第一係・佐藤 博)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■ニンジン (各務原市) 春夏ニンジン収穫始まる

今年の春夏ニンジンの収穫が5月6日より始まった。例年、出荷が始まる前に出荷目揃え会が開催されるが、今年も昨年と同様に新型コロナウイルスの関係で目揃え会を開催せず、資料の配布だけとなった。

今年は梅雨入りが早く、雨が多いため、なかなかほ場に入れず、雨間を見つけて苦労しながらの収穫となっている。

農業普及課では、問題となっているしみ腐れ病、黒あざ症を中心に、対策を検討し、今後の指導につなげていく。



【収穫されたニンジン】

(地域支援第二係・水川 誠)